

地形や気候の特色と人々の暮らし	( )組	氏
	( )番	名

ひろしさんが天気予報を見ていると「東京は晴れていますが、九州地方はもう少し雨の日が続くでしょう。」というコメントがあり、それを聞いたおばあちゃんが、「宮崎は雨が多いから水害が気になるね。」と心配そうにつぶやきました。

そこでひろしさんは、社会科で学んだことをもとに、次の表のように予想しました。

表 ひろしさんの予想

ア	宮崎は、他の都道府県と比べても雨の量が多いのではないだろうか。
イ	日本は国土のはばがせまく、山地が海岸のすぐ近くにあるので、外国の川と比べると川の長さが ( ① )、流れが ( ② )。だから、雨の量が多いと、水害の被害もあつたのではないだろうか。
ウ	水害を防ぐために、いろいろな工夫が行われてきたのではないだろうか。

(1) 上の表の中の、( ① ) と ( ② ) にあてはまる言葉を答えましょう。

①	短く	②	速い(急である)
---	----	---	----------

(2) 下の資料1と資料2は、上の表のアをもとにひろしさんが調べたものです。

資料1と資料2をもとに、次の【ひろしさんが考えたこと】の( ③ )と( ④ )に当てはまる言葉を書きましょう。

【ひろしさんが考えたこと】

資料1から、宮崎県は全国でも降水量が多いところだということが分かる。また、資料2を見ると、新宿では300mmをこえる月が一度もないのに対し、宮崎市では6月は700mm、9月は500mmをこえている。宮崎市で6月に降水量が多いのは( ③ )の影響、9月に多いのは( ④ )の影響によるものだと思う。

③	つゆ
④	台風

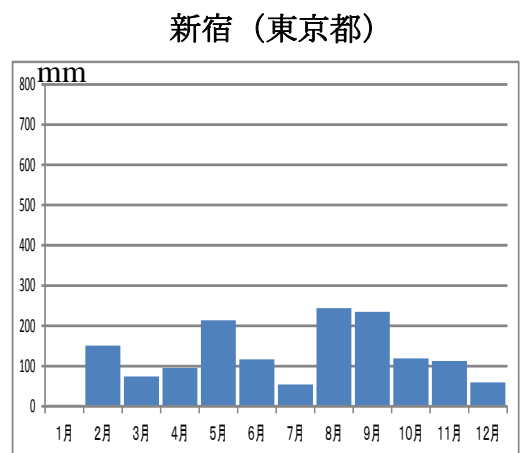
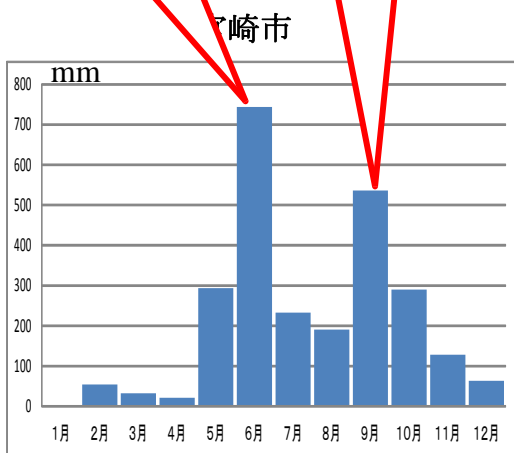
資料1 主な都県の年間降水量の比かく(1981年～2010年の30年間の平均)

都県	年間降水量 (mm)	順位
川県	18.9	1位
静岡県	2324.9	4位
東京都	1528.8	26位

つゆの影響で、降水量が多くなっています。

台風の影響で、降水量が多くなっています。

資料2 宮崎県と新宿の1年間の降水量(2011年)



※ 資料1・資料2は、「気象庁ホームページの統計資料」より作成

(3) 下の資料3～6は、前のページの表や考えたことをもとに、ひろしさんがそれぞれ調べたものです。

これらの資料をもとに、次の【ひろしさんのまとめ】の（ ）の中に当てはまる言葉を考えて、書きましょう。

【ひろしさんのまとめ】

資料3から分かること	床上浸水や床下浸水などの水害が毎年おきており、特に平成17年は被害が大きかった。こういった被害を防ぐために、資料4～6のような対策が必要である。
資料4の対策	大雨などの水を一時的にダムにためておき、流れる水の量を（調節する）ことで川の水があふれることを防いでいる。
資料5の対策	川のはばを（広く）したり、川の底をほったりすることで川の水を流れやすくし、川の水があふれることを防いでいる。
資料6の対策	（ていぼうを高くしたり、くずれにくいように固めたりして）、川の水があふれることを防ぐ。

資料3 宮崎県の床上浸水などの被害戸数 （※「宮崎県災害統計資料」より作成）

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
床上浸水	1407	94	156	35	3
床下浸水	2964	235	527	388	7
全壊	1136	77	7	4	0

ダムに水をためることで、下流に流れる水の量を調節することができます。

資料4 田代ダム



洪水を防ぐため、川の幅を広げたり、川底を深く掘ったりする工事が行われています。

資料5 川の工事の様子



洪水が起きやすい場所の堤防は、堤防の高さが高く、コンクリートで固められています。

資料6 ていぼうの様子

